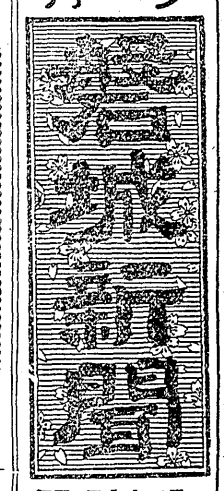
夕刊



三月二十九日　發行

定價一ケ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料金（特選欄）金六拾錢（五行十字詰一行）（通常欄）金五拾錢（五行十字詰一行）
發行所　磐城新聞社
福島縣磐城郡平町
登錄番號（ライフワク）第五六四五號

（日曜祭日翌日休刊）

童話

# たうみぎ泥棒

千葉省三

（中）

背の高い、たうみぎの莖ソリ動きだす、ときどき止まつては又動きだす。そしてが鼻の先にさわるぐらゐに並んで突つ立つてる。葉つぱがあをあをとさがつてる毛のはにたたうみぎが角のやうに、その間から突き出てゐる。上を見ると、た星さまがチカンチカン光つてゐる。

『風がちつともねえ晩だなぁ！』

『うん！』

『まあだ、早えんぢやねえか』

『さうかもしんね』

藪蚊が、人の匂ひをかぎつけてだん〳〵ひどく集まつてくる、默つてゐると大川の瀬の音が、地の底でひそくやうに聞えてくる。

『河原の方さ、行つて見つか』

ボリボリ足をかきながらいふ。

『うん、さうしべ』

ふたりは、畑を突つきつて、土手の上へはひあがつた。土手の上は、いくらか風がある。河原の向うに宿の灯がきれいにならんで見ゐる。

草履をぬいで、はだしになつて歩いた。芝草に夜露がびつしよりおりてゐて、ひやひやしていゝ氣持だつたおれらは、だん〳〵橋の方へ歩いて行つた。

すると急に助治が立ちどまつて、いきなりおれの手をひつつかんだ。

『見ろ！あれを！』

ひくい、おつかなさうな聲で云ふ、おれは胸がドキリとした。

竹藪の、葉つぱのさがつた影に、何だか大きな黑いものがしやがんでゐる。見げだした。

てゐるうちに、ムクリムクリ動きだす、ときどき止まつては又動きだす。そしてだん〳〵たうみぎ畑の方へはつて行くのだ。

『何だ、あらあ！』

おれには、それが小馬くらゐもあるやうに思はれた。

『來やがつたんだ、な？』

助治の指が、ねばりつくほどギイツとおれの手をにぎりしめてる。

とう〳〵、畑の中へはひこんでしまつた。そしてギリギリ……と、たうみぎをねぢ折る低い音がきこえだした。

助治は、とつせんどなりだした。

『父！泥棒が來たぞう！』

泥棒はこの聲をきくと、見ると影は二つだつた。先に行くのは泥棒で、あとから行くのは助治の父だ。いつのまに出て來たのかわかんない。裸のまんま何か太い棒をふりあげて、おつかけて行く。それとわかると、おれらは急に勇氣が出た。そして土手の上を一散に、そツちへ駈けだした。

『時代警語』

○四方に使して君命を辱めず……（古語）

用事を托されて先方へ行つて只歸つて來るやうな人物は將來望みが無い方のものである。四方に使して要領を得、相當の結果を收め得て歸る人は何れの方面でも手を擧げて迎へられるのである……

## 春雪集

島田松子

哀愁に時に地擘き立つる音は被なしづる雪のこほりつくらむ

朝床に目覺めさむけしよべのまに降りたる雪のこほりつくらむ

つつがありて臥る吾がため夫のあくる窓のおもては雪ま白なり

よべの雪積れる庭の松葉の枝雪をかぶりて地につかむとす

雪消ゆ低く垂りつつ一日さむし西に向へる飛行機ありて

よつぼどあわてたらしい。たうみぎ畑を横切つておれらのゐる土手の方へ來ようとする、たうみぎがガサガサゆすれて、何本も音を立てて倒れた。泥棒はそれにつまづいて、ころんだり起きたりして驅けてくる。

おれらは、びつくりして竹ぼを振りまはして逃げながら、一生懸命どなつた。

『どろぼう！どろぼう』

泥棒は、土手の下まで來てやつと、おれたちのゐることがわかつたらしく。土影に、何だか大きな黑い手へ上らずに川下の方へ逃げたものがしやがんでゐる。見げだした。

暮れのこる夕空うかべゆつたりと、流れる春の六郷の川

西村陽吉

## 社會の今日

3月30日（昭和六）

△後深草上皇御落飾（正應三）△始めて敵の刑を行ふ（延享四）△村田銃發明（明治一四）△東西及名古屋の銀行預金利下確定△印度國民議會で英印協定全部承認

## 拈華微笑

勇士百十三名の手近に出來た銃後支援の必要。

◇

平町民以て奈何となす

◇

けふ平商入學者發表、牙籌の小

◇

旅行

◇

得意想ふべし矣

冠雪、天公もたまには味をやる

◇

崖上の生から谷底の死へ。自轉車でスピーディ

◇

卯月近くに連山

照々たる陽春に映發する昭和産業博覽會の建物平の春は長閑だ

と、一旦斷りを立てました安心してゐたが、又建るとが、山本は殿樣が氣に入らないから、何方へしても今度の普請は外へ渡すものだ遠慮しないで受けたが好いと、御用人から進められたものですからマア仕方なしに受けたのでしてね！』政『何時から道りますか』金『早い方が好いので、明日からお願ひします』政『ぢで三五郎のところへ心配顏やア五人明日の朝根岸へ廻します』金『お願ひ申しま井達何も心配する事はねへすよ』四ツ目の金五郎は夫れで歸つた、政吉は腕の勝

ツカリ普請が出來たら、又親分を迎ひに來るだらうが困りものだ』○『何しても大川の兄貴などは大概容子を知つてるだらう、一ツ聽いて見ようぢやアねへか』△『夫れが好からう』其處

れた弟子を五人選んで翌朝根岸の金五郎の普請小屋へ遣はしました、內意を含めてスッカリ屋敷の案內と普請の間取り等の圖を引かし、イザと云ふ時に役に立てる積り、政吉と云ふ人はる物の頭になる丈、却々考へ好が深かつたのでございますて水野の屋敷は明日大工左官がドン〳〵來て、檜造りの前の風呂場はスッカリ壞して仕舞ひ、新たに棟トに貸した事があります、其げが出來た、同じ根岸に居るのだから、長兵衛の子分達は變に思ひ○『折角建たるのを一度も使はず打ち壞し家を一度も使はず打ち壞し又新規に建替えるとはおかしいぢやアないか』△『命は外神田の山本が受けたそうだが今度は私の方へお話しがあり、人の得意を取つてやうに當つては成らねへに見せるてへ自慢な檜造りも妙だと思つてゐる、親分達が人との出入りを恐れて居たでは迚も世の中が納まらねへ、一ッ物を投出して親分の差圖次第だ』と澄して居ります○『物を投げ出す、ハテね石ッころですかそれとも火鉢、藥鑵灰吹きの類ですか』三『氣樂なこと云ふな、投出すのは俺達の命だ』○『ホウ命……命なら火鉢や藥鑵より安いや』全く氣樂な連中……併時は金さんが受けたのぢやア無かつたが、今度はお前さんが受けなさつたね』金『然うでげすよ、前の普請は外神田の山本が受けたそうだが今度は私の方へお話しがあり、人の得意を取つてやうに當つては成らねへ

## 講談

俠艶

# 女長兵衛

東京　斯波南史（魚崎湖畔）

（一七〇）

政『えッ、根岸の水野ッ……』と政吉は眼を見張つて驚いたが、直に笑顏になり政『然うでげすかい、好がうございます、何とか都合を付けませうよ、根岸の水野樣のお屋敷へは前の普請の時にも家の職人を手傳ひに貸した事があります、其時は金さんが受けたのぢやア無かつたが、今度はお前さんが受けなさつたね』金『然うでげすよ、前の普請は外神田の山本が受けたそうだが今度は私の方へお話しがあり、人の得意を取つてやうに當つては成らねへ

達が人との出入りを恐れて居たでは迚も世の中が納まらねへ、一ッ物を投出して親分の差圖次第だ』と澄して居ります○『物を投げ出す、ハテね石ッころですかそれとも火鉢、藥鑵灰吹きの類ですか』三『氣樂なこと云ふな、投出すのは俺達の命だ』○『ホウ命……命なら火鉢や藥鑵より安いや』全く氣樂な連中……併時は金さんが受けたのぢやア無かつたが、今度はお前さんが受けなさつたね』金『然うでげすよ、前の普請は外神田の山本が受けたそうだが今度は私の方へお話しがあり、人の得意を取つてやうに當つては成らねへに見せるてへ自慢な檜造りも妙だと思つてゐる、親分達は變に思ひ○『折角建たるのを一度も使はず打ち壞し家を一度も使はず打ち壞し又新規に建替えるとはおかしいぢやアないか』△『命

# 本社の慰問に對する謝狀一束

141

## 滿洲から

## 早曉の薄暗を衝いて一齊に萬歲の聲揚る

### ハ市ミルレル兵營出發記

江尻進君　近信

一、○隊は哈爾賓ミルレル兵營に在る中已に旬餘一同無聊に苦みある折しも一面坡附近

◇邦人保護の命　に接し歩兵第○○○聯隊長指揮の下に第二第三列車に分乘して三月三日午前五時勇躍哈市を出發す、徐々に白煙を吐いて軌り出す列車の窓側より朝暗を衝いて一齊に萬歲の聲揚がる厳甲斐なき吉林馬匪軍が漸く進入せりといふ（中略）各驛のホームに慰ふ蜿々七十輛の我列車の周圍には何時とはなしに襤衣垢顔の支那人は老幼相携へ

◇何の感激もなき様子にて珍し氣に群り來り其間を縫ふて赤系露國人の二三人連れが足並揃へ往きつ戻りつする様は特に一同の視線を蒐む、二、午後二時二十五分無事一面坡に入る、當夜は列車内に宿る、當地は北同賓を經て方正に通ずる要衝を占め我が輕井澤の避暑地に似たり、人口約四萬あり在留邦人は男女九十名を算し貴藥、質屋、木材穀物、仲買業等に從事す、

特産品としては

◇大豆、木材を　主とし麥酒會社製粉所等あり麥酒はハルビンより遙かに良質にして一日約五萬本を産す

三、翌四日午前九時一面坡出發葦沙河石頭河子六道河子を過ぎて午後三時横道河子に着く、同地は東支東部線の概ね中間に位し人口約三萬内日本人二十九名あり男女數名が手に手に日章旗を振り翳し萬歲を唱和する盛懷し、午後五時二十分頃海林に着き直ちに下車同地に宿營す

◇海林は人口約　三千の小部落にして日本人五十一名あり木材、料理店等を業とす、日支合辦の海林公司及製粉所等あり附近兵匪は尚未だ去らず其數約二千を算すと人心恟々たるものあり（中略）寧安に入り現に同地に警備しつつあり寧安中にして第一〇隊亦十五日も一面坡附近

◇邦人保護の命　に接し歩兵第○○○聯隊長指揮の下に第二第三列車に分乘して三月三日午前五時勇躍哈市を出發す、徐々に白煙を吐いて軌り出す列車の窓側より朝暗を衝いて一齊に萬歲の聲揚がる厳甲斐なき吉林馬匪軍が漸く進入せりといふ（中略）各驛のホームに慰ふ蜿々七十輛の我列車の周圍には何時とはなしに襤衣垢顔の支那人は老幼相携へ

◇何の感激もなき様子にて珍し氣に群り來り其間を縫ふて赤系露國人の二三人連れが足並揃へ往きつ戻りつする様は特に一同の視線を蒐む、二、午後二時二十五分無事一面坡に入る、當夜は列車内に宿る、當地は北同賓を經て方正に通ずる要衝を占め我が輕井澤の避暑地に似たり、人口約四萬あり在留邦人は男女九十名を算し貴藥、質屋、木材穀物、仲買業等に從事す、

特産品としては

◇大豆、木材を　主とし麥酒會社製粉所等あり麥酒はハルビンより遙かに良質にして一日約五萬本を産す

三、翌四日午前九時一面坡出發葦沙河石頭河子六道河子を過ぎて午後三時横道河子に着く、同地は東支東部線の概ね中間に位し人口約三萬内日本人二十九名あり男女數名が手に手に日章旗を振り翳し萬歲を唱和する盛懷し、午後五時二十分頃海林に着き直ちに下車同地に宿營す

◇海林は人口約　三千の小部落にして日本人五十一名あり木材、料理店等を業とす、日支合辦の海林公司及製粉所等あり附近兵匪は

◇邦人保護の命　に接し歩兵第○○○聯隊長指揮の下に第二第三列車に分乘して三月三日午前五時勇躍哈市を出發す、徐々に白煙を吐いて軌り出す列車の窓側より朝暗を衝いて一齊に萬歲の聲揚がる厳甲斐なき吉林馬匪軍が漸く進入せりといふ（中略）各驛のホームに慰ふ蜿々七十輛の我列車の周圍には何時とはなしに襤衣垢顔の支那人は老幼相携へ

◇何の感激もなき様子にて珍し氣に群り來り其間を縫ふて赤系露國人の二三人連れが足並揃へ往きつ戻りつする様は特に一同の視線を蒐む、二、午後二時二十五分無事一面坡に入る、當夜は列車内に宿る、當地は北同賓を經て方正に通ずる要衝を占め我が輕井澤の避暑地に似たり、人口約四萬あり在留邦人は男女九十名を算し貴藥、質屋、木材穀物、仲買業等に從事す、

特産品としては

◇大豆、木材を　主とし麥酒會社製粉所等あり麥酒はハルビンより遙かに良質にして一日約五萬本を産す

三、翌四日午前九時一面坡出發葦沙河石頭河子六道河子を過ぎて午後三時横道河子に着く、同地は東支東部線の概ね中間に位し人口約三萬内日本人二十九名あり男女數名が手に手に日章旗を振り翳し萬歲を唱和する盛懷し、午後五時二十分頃海林に着き直ちに下車同地に宿營す

◇海林は人口約　三千の小部落にして日本人五十一名あり木材、料理店等を業とす、日支合辦の海林公司及製粉所等あり附近兵匪は

## 銃後の支援とは？

### 此種の事實を見逃すな

紺屋町の裏長屋に憐れな家族

平町役場では今二十九日町納豆を仕入れ朝は未明から内某々五家族に對する軍事夜は遅くまで行商し一日僅救護法適用方を當局に申請か十錢内外の利益で饑餓をしたが右の中特に同情に堪へられて居る處から家主の瀬えぬのは紺屋町七某で入營谷某も太く之に同情し家賃前まで切花商を營み幸じても取らずに何くれとなく面家族三名を支持し來つたが倒を見て居るが町役場でも一家の支柱たる主人の入營救護法に依るばかりでな後は妻八十は若い身空に二才の照子を背に内郷村から私かに篤志家の救助を望んで居る

## 濱三郡木炭組合へ十八萬圓を融通

### 借受希望者殺到の形勢

生産改良組合の設置を督勵中の縣では囚作低利資金二十八萬圓を融通する事に決十三萬六千圓の中木炭材産定した旨昨二十八日濱三郡

## 花の四月に

### 異例の割引斷行

赤字に惱む鐵道の打開策

鐵道では赤字續きの爲四月試驗了る十九日の體格檢査を以て終了、高女は明三十日、磐中は三十一日正午合格者を發表する

△普通三〇人以上。一割二百人以上一割四分。五百人以上二割。△特別三〇人以上二割五分。二百人以上三割。五百人以上四割

## 將來チームとしては伸びる素質を有する

### 磐中野球選手の發奮

磐中野球部では二十四日かゐるとの注意を受け彌が上ら慶大渡邊、黒崎の兩選手にも意氣軒昂此の狀態で進のコーチを受け猛烈な練習めば縣下の覇權を握るのもをなしてゐるがチームとしては伸びる素質を有して居るが覇氣及撰球眼を欠いて

## 姑洗氏の歡迎を兼ね好間で一大運座

### 來月五日濱三郡俳句大會

好間村十好會主催の濱三郡鈴木秀山宅で開催されるが會は來月五日午後五出席百餘名に達する豫定で時たら東京ぬがご社安藤姑ある洗氏の歡迎會を兼ね上好間

## 水稻多收穫品評會

### 郡農會の肝煎りで來九月開催に決定

郡農會では最初の試みとしたが參加者は一町村二名て富民協會主催品評會參加宛町村農會長の推薦に依る以外の水稻多收穫品評會をもののみで希望者は來月十九月中に開催する事に決定日迄に同會に申込まれ度い

## 平商校入學試驗合格者

### 試練突破の百十三名（今廿九日午前發表）

平商業學校入學試驗合格者今二十九日午前八時左記の通り發表さる（成績順）

中島勝、北林義雄、相良豊吉、高木信定、亀岡進一、馬目健治、渡邊潔、鈴木武二郎、鈴木鐵生、白旗安男、坂上浩、根本一男、根本淳平、金成賢一、原健一、白土力男、須藤良平、鹽澤友吉、長瀬義德、橋本貞吉、佐藤寛文、鯨岡登一、佐藤久右工門、金賀實、木村園美、鈴木義敏、阿部傳、綠川忠良、加澤定男、後藤英一、鈴木正平、菅野浩、新妻政雄、吉岡健一、猪狩勲、山野邊義雄、鈴木忠友、二片康夫、藥谷泰雄、木村俊男、篠原孝欣、黒川壽三、鈴木宏行、遠藤正夫、吉田喜一、志賀清、鈴木武夫、會澤定雄、菅原眞一郎、赤津康田中忠愚、鈴木義宗、芳賀弘、大越孝一、猪狩孝夫、近藤敦、樫村吉一、大平兵一、和田祥之亮、松本浩平、新妻大、會川太平、中根正博、鷲谷一郎、草野三郎、田口眞美菅原宏、酒井長治、佐藤又十郎、坂本昇、神長倉一夫、渡邊廸之、齋藤一郎、西山肇、久田定男、中野正三、佐藤幸雄、中島幸雄、若松寛、山崎勝壽、齋藤之男、沼田六郎益子光夫、井上稔、根本浩、鈴木二郎、佐々木義長、木村勇、鷲昇、石川榮一、鈴木芳忠、秋山登佐藤時男、加藤與吉、薄葉嘉宏、吉田利八、蒲田力之助、吉原利男、牛久隆夫、荒木勝彌、中田義一、松本茂忠、小齋誠、金成新一郎、坂本和平、渡邊眞行、磯野長一、大和田昌司、大井川光男、原田知良、大友次夫、高木光行、藥谷正幸（百十三名）

## 子守娘出奔

### 雇主から捜査願

平町五色町甲子樓事平野井子之松方子守東京市深川區猿江裏町一〇四前田金十郎發女三浦政子（一四）は前借八十圓で一昨年五月中雇入れたものであるが二十七日家出したので本日雇主から平署に捜査方願ひ出た

## 五十尺の斷崖から自轉車諸共谷底へ

### 石住の下駄職過失慘死

石住村大字歳鉢下駄職小林寅太（四二）は二十五日午後八時頃自轉車で植田町よりの歸途入遠野村大平地内御齋所峠山道を疾走中誤つて五十餘尺の斷崖より墜落頭部を粉碎して慘死した

## 產馬奬勵金

郡下六氏に交附

郡產馬畜產組合員中左記六氏は種牡馬飼養奬勵補助規定に依り昨二十八日農林省より頭書の補助金を交附された

△五十圓山錦山野三藏（上遠野）同アイデア合津功（永戸）第二バルドルフ草野惣吾（同）、同玉錦大竹茂（三坂）六十圓喜勇鈴木富太郎（永戸）同繁美野崎辰藏（荷路夫）

## 駒羅

郡產馬畜產組合では左の日割で七年度第一回二才駒羅を行ふが昨年より一頭に付九圓の高値を示してゐると

△澤渡中寺三十日より五日間、上遠野大字上遠野四月五日より四日間、田人村黒田九日より三日間

## 入學試驗問題 (2)

### 平商業校

算術

一、略

二、1時間ニ3,5KMノ割デ毎日10時間歩イテ2日カル道ヲ1時間ニ4KMノ割デ毎日7時間ヅヽ歩クト幾日カカルカ

三、12圓50錢デ買入レタ品ニ17圓50錢ノ定價ヲ附ケタガ賣レナイノデ之ヲ定價ノ1割引デ賣ツタ。幾割ノ益ガアツタカ、損ガアツタカ。

國語

一、次の文を讀み左の問に答へなさい。

ひば・松・葉落松は何れも堅くして、耐久・耐濕の性あるを以て、建築・土木・造船等其の用途頗る廣し、ひばは抵抗力を有し、松と落葉松とは彈力に富む等、各其の特性を具へたり。

問1　ひば、松、落葉松何れもの性質

2　ひば、松、落葉松等の用途

3　落葉松の持性（ひば、松、落葉松）

二、左の語句を解釋なさい

不朽の名聲を博す

兄弟垣にせめぐ

三、左の熟語に假名をつけて解釋をなさい

風聞。　口實。　租界。

四、次の語句を用ひて短文を作りなさい

精々。　賜

賜である。

五、次の各問題の上の二つの語の關係と同じになるやうな語を下に書き入れなさい

釋迦：佛教　ダーウ（　）イン

天然：人爲　模倣（　）

寒暖計：温度　時計（　）

六、次の文中カタカナの語に漢字をあてなさい。

（1）デンリヨクは、頗るレンカにキヨウキフされる。

（2）商人はセケンのシンヨウを博してケンジツにコのジグフをハツテンさせる道を考へねばならぬ。（以上五十分）

磐中　第二日

一、次ノ計算ヲナセ

（イ）5,33＋0,274－4,37＋0,987－1,222

（ロ）略

二、次ノ比ノ値ヲ求メヨ

（イ）16時：2日

（ロ）（362＋218）×5,8－132×25ヲ計算セヨ

（イ）54圓デ買入レタ品ヲ1割5分儲ケテ賣ルト利益ハ何程カ

（ロ）1秒間ニ90M飛ブ燕ト1時間ニ252KM進ム飛行機ノ速サノ比ヲ求メヨ

四、60Mヲ隔テテ2本ノ電柱ガアル此ノ本ノ電柱ノ間ニ2,5M毎ニ櫻ヲ植エルニハ幾本ノ櫻ガイルカ

五、太郎ガ或日曜日ノ午前七時ニ起キ午後十時ニ寢タ此ノ間ノ時間ノ五分ノ一ハ學課ヲ復習シ三分ノ一ハ運動ヲナシ十五分ノ四ハ食事ト休息ニ費シ殘リノ時間ヲ雜事ニ使ツタ時間ハ何程カ

磐女　第二日

一、上茶3KGノ價ト下茶5KGノ價ト等シイ上茶1KGノ價ガ4圓デアルト下茶1KGノ價ハ幾ラデアルカ

二、12圓50錢デ買入レタ品ニ17圓50錢ノ定價ヲ附ケテ之ヲ定價ノ一割引デ賣ルト幾割ノ益ガアルカ、損ガアルカ

三、圓形ノ池ガアル其ノ直徑ガ9,5Mアルト其ノ周ハ何程カ又其ノ面積ハ何程カ

左の文中に文字の誤あらば右側に線を引きその右に正しい文字を書きなさい

原平の昔話は人の咸興を動かすこと甚だ功なり

左の語句のわけをかきなさい

（イ）過ぎたるは及ばざるが如し

（ロ）多少の相違あるを要す

左の漢字を用ひて熟語各二つづゝ作りなさい

（イ）事（ロ）讀（ハ）體（ニ）服（ホ）着

一、大工30人ガ毎日9時間ヅヽ働イテ40日デ出來上ル仕事ヲ25人デ54日間ニ仕上ゲルニハ毎日幾時間働カネバナラヌカ

二、雇人ノ賃錢ガ男4人分ト女7人分ト等シイトキ女1人分ガ76錢デアルト男1人分ハ幾ラデアルカ

三、1畳敷ニ3分進ム時計ヲ或日ノ正午ニ正シイ時計ニ合ハセテ置クト翌日正シイ時刻ノ午前8時ニハ何時ヲ指シテキルカ

左の語に讀假名をつけなほそのわけをしるしなさい

（イ）租界　（ロ）壯麗

（ハ）信仰　（ニ）失望

左の文中線のあるところの意味をかきなさい

（イ）此の川は古の籔の川にしてかのをろち退治の傳說あるは此の川の川上なり

（ロ）イグアツスーの瀑布は高さ五十五メートル幅三千六百メートル其の壯觀實に筆舌に盡し難く候

左の文中線の引いてあるところの意味をかきなさい

此のまゝ新手の兵を迎へては萬に一つの勝算なし

盛政は勝つて兜の緒をしめざりし油斷を悔いつゝ俄にやみの中を退却し始めたり。

## 敷軒で只飲み

當時住所不定無職栃木縣生れ前科二犯菊地仲之助（三五）は客腦二十五日水戸刑務所を出所後各地を徘徊し去月中郡内に流れ込み二十六日勿來町源助町飲食店玉家事船生フキ外數軒で無錢飲食をなし昨二十八日植田署に檢擧された

菊地刑事轉任　平署刑事菊地啓治氏は須賀川署に榮轉する事に決定四月一日午前八時五十分平驛發で赴任


生徒募集

時代に適した婦人の職業

產婆・看護婦

◆……卒業一ケ年

◆……申込四月八日迄

◆……入學無試驗

平町南町

平產婆看護婦學校

校長　清野キヨ

電話三〇七番

產婦人科

花柳病科

井阪醫院

午前宅診

午後往診

入院應需

平町田町（元合津醫院跡）

電話五五九番

皆さんに御願ひ

自動車ハ最新ノ三二年型！車体番號ハ福島三二番！電話ハ三二番へ

今度皆々様の御愛顧と御後援を仰ぎタクシー部を設けました。何を申すも處女營業のことゝて地方皆様の御愛好を得て進みたく從業員はヘビーを盡してサービスあるのみです。車は御氣に召す様にと三二年初春のトップを切つた最新型を整へましたから是非御召し下さい。

一九三二年に因み

三二番の電話を用ひますから御利用下さい。

平町　白銀町

加藤丈夫營業所

不二タクシー

主任　菅本昇

貸切ノ御用命ハ

イツデモ眞先ニ（松崎ニ）

三九二タクシーへ

（デンワ、ミクニ）

踏判定應需

東京市本郷區湯島四丁目五番地

高島易斷總本部　神誠館

舊二月十四日　水曜日　三月

庚寅　先勝　閉　三十

参宿

▲一白の人　物事に移り變りの激しき日自信なつらぬくべし▲二黒の人　盛運なれどもみづからぼ穴を掘るの恐れある日▲三碧の人　萬事油斷すべからず衰運一家を襲ふ兆あり▲四綠の人　出ざるもの事に手を附けて失策を招ぐべし▲五黄の人　計畫そこして取返しのならぬ日進むは大凶▲六白の人　地味に進めば福徳おのづから入り來る良好なる日▲七赤の人　福運再び廻り來りて一家幸福に惠まるる日▲八白の人　商賣多忙を極め利益も相當に揚る幸運の日▲九紫の人　危地に陷り損失亦多し堅く定業を守るべし

平町慶弔錄

△田　生

白銀町八白土美知雄長男英夫

礼宜町六八芳賀儀二女カヨ

仲間町六九安達郡山木屋村菅ノ又

菅下一五佐藤助十郎三女ヒテ子

△婚　娘

白銀町八白土美知雄（三四）好間村中好間八反田高田アサ子（三二）